

(参考様式2)

令和 4年 4月 19日

## 出張報告書

津山市議会議員 田口浩二

出張日	令和 4年 4月17日 ~ 令和 4年 4月19日		
種別	<input type="checkbox"/> 調査研究・視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 各種会議		
出張先	那覇文化芸術劇場「なはーと」 那覇市若狭公民館 沖縄県議会 首里城公園		
調査研究項目 要請・陳情項目 研修会・会議名	地方議会研修会 in 沖縄 ～地方議会のオンラインと DX,この潮流に乗り遅れるな！基本から最 前線まで！～ 首里城復興状況視察		
対応者／講師名	早稲田大学名誉教授 那覇市立仲井真中学校教諭 早稲田大学 LM 研究所事務局長 滋賀県大津市議会議会局長 宮崎市議会議長 沖縄市議会議員 テレビ東京政治部記者 磐梯町再考デジタル責任者 那覇市副市長	北川 正恭 氏 井波 勝之 氏 中村 健 氏 清水 克士 氏 鈴木 一成 氏 嵩本 直萌 氏 篠原 裕明 氏 菅原 直敏 氏 久場 健護 氏	
目的	議会 DX・主権者教育・情報発信について学ぶ		
概要	1日目 基調講演 事例報告 調査報告 実践報告	議会のDXで、善政競争をリードする 中学生が創るこれからの条例 那覇市民としての政治参加を考える DXの最前線 全国の事例から 今なぜオンライン議会が必要なのか 大津市議会の取組みから 地方議会DX実証実験・研究の取組み	北川正恭氏 井波勝之氏 中村 健氏 清水克士氏 鈴木一成氏

<p>概 要</p>	<p style="text-align: center;">情報格差をなくす社会へ デジタル情勢の共有姿勢</p> <p style="text-align: right;">嵩本直萌氏</p> <p>2 日目 沖縄県議会視察</p> <p>講演           DX時代に伝えるということ           篠原裕明氏                   自治体DX入門セミナー               菅原直敏氏</p> <p>3 日目 首里城復旧状況視察</p> <p>1 日目は、久場健護那覇市副市長より歓迎の挨拶をいただいた後、北川先生より「議会のDXで、善政競争をリードする」とのテーマで基調講演をいただいた。その後、那覇市立仲井真中学校の井波勝之教諭より事例報告として、中学生による条例制定の陳情プロセスについて報告を受けた。引き続き調査報告として、中村氏よりDXの実情について説明を受け、最後に実践報告として、清水氏より大津市議会での取組み、鈴木氏より宮崎市での取組み、嵩本氏より沖縄市での取組みについて報告を受けた。</p> <p>2 日目には、まず、沖縄県議会の視察をさせていただいた後、若さ公民館に移動し、篠原記者より情報を伝えるポイントについて講演をいただいた後意見交換を行った。昼休憩を挟んで、菅原氏より自治体DXの意味、進め方などについて講演いただいた。</p> <p>3 日目には、2019年に火災により焼失した首里城の復旧状況の視察をした。</p>
<p>得られた成果 市政への反映点 今後の課題点 など</p>	<p>先進自治体の取組みを知ること、DX、主権者教育の必要性並びに聴いてもらえる情報発信の仕方について学ぶことができた。特に中学生による条例提案については、自治体に直接関与させることにより自分事として地方自治を考えさせる素晴らしい取組みであると感じた。政教分離には十分配慮しながら本市でも取組んでいくべきだと思ふ。また、理解してもらえる情報発信の手法で、より議会の認知を深めていきたい。DXを進めていく中で、より効率的な議会運営を行いながら住民福祉の向上に努めたい。火災による被害を改めて認識した。本市における防火対策を再確認し、文化財の焼失等がないよう働きかけたい。</p>

(参考様式2)

令和 4年 5月 13日

## 出張報告書

津山市議会議員 田口浩二

出張日	令和 4年 5月11日 ~ 令和 4年 5月13日	
種別	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 各種会議	
出張先	東京ビッグサイト 早稲田大学大隈記念講堂	
調査研究項目 要請・陳情項目 研修会・会議名	教育総合展 EDIX 東京 全国地方議会サミット 2022 多様な議員、参画、政策形成	
対応者／講師名	早稲田大学名誉教授 デジタル改革担当大臣 大正大学社会共生学部教授 長野県長野市議会議員 沖縄県読谷村議会議員 月刊ガバナンス編集主幹 滋賀県大津市議会議会局長 宮城県取手市議会事務局次長 愛知県知立市議会議員 福岡県春日市議会議員 福岡県春日市議会議員 法政大学法学部教授 北海道別海町儀長 北海道鷹栖町議会議員 北海道鷹栖町議会議員 法政大学総長 日本大学法学部教授 東京都豊島区議会議員 宮城県柴田町議会議員 宮城県柴田町議会副議長 早稲田大学 LM 研究所事務局長	北川 正恭 氏 牧島かれん 氏 江藤 俊昭 氏 寺沢さゆり 氏 伊波 篤 氏 千葉 茂明 氏 清水 克士 氏 岩崎 弘宣 氏 中野 智基 氏 松尾 徳晴 氏 米丸 貴浩 氏 土山希美江 氏 西原 浩 氏 青野 敏 氏 片山 兵衛 氏 廣瀬 克哉 氏 林 紀行 氏 永野 裕子 氏 高橋たい子 氏 平間奈緒美 氏 中村 健 氏

<p>対応者／講師名</p>	<p>株式会社 POTETO Media 代表 古井 康介 氏  ZEXT 代表 小林 真子 氏  ZEXT 副代表 吉永 一輝 氏  大正大学社会共生学部教授 片山 善博 氏</p>
<p>目的</p>	<p>教育関連機器・ソフトウェアの情報収集  議会改革について学ぶ</p>
<p>概要</p>	<p>5月11日 第3回 STEAM 養育 EXPO  第5回学校施設・サービス EXPO  第2回保育・幼稚園 ICT 化 EXPO  第13回教育 IT ソリューション EXPO  第2回人材育成・研修 EXPO  が同時開催される教育総合展 EDIX 東京視察</p> <p>5月12日  基調講演 チーム議会で取り組む「自己決定・自己責任」の地方自治  13:10～13:30 北川正恭氏  特別講演 一人一人の多様な幸せを実現するデジタル庁のミッション  13:30～13:45 牧島かれん氏  講演・鼎談 住民自治と多様な議員で構成された活力ある議会  13:50～15:00 江藤俊昭氏  寺沢さゆり氏  伊波 篤氏  セッション 各地からオンライン登壇も！オンライン議会の展開事例  15:10～16:45 千葉茂明氏  なぜオンラインが必要なのかー大津市議会の経験から  清水克士氏  こんなこともできる！オンラインー取手市議会デモテックへの取組から  岩崎弘宣氏  実践紹介 議会オンラインへの対応と市民とつながる・深まる議会改革 中野智基氏  実践紹介 市民とつながるー「議員と語ろう 議会報告会」オンライン 松尾徳晴氏  米丸貴浩氏  講演・セッション 多様な議員の一般質問を議会の政策形成へ 土山希美江氏  16:55～17:55 事例紹介 一般質問検討会議から議会の政策形成へ  西原 浩氏  実践紹介 一般質問でまいた種を市民と共有市議会の政策形成へつなげる  青野 敏氏  片山兵衛氏</p>

<p>概要</p>	<p>5月13日</p> <p>講演 コロナ2年の経験をどう生かしていくか!? 廣瀬克哉氏 10:05~10:50</p> <p>講演・セッション 地方議会における男女共同参画の推進と実践 11:00~12:00 林 紀行氏</p> <p>事例紹介 出産・子育てと議員活動の両立支援のための 体制整備 長野裕子氏</p> <p>事例紹介 正副女性議長が取り組む柴田町議会の男女共 同参画の推進 高橋たい子氏 平間奈緒美氏</p> <p>講演 速報! 議会改革度調査ランキングとトレンド 13:00~13:45 中村 健氏</p> <p>講演・セッション Z世代にも届く! デジタルを活用した広報・公聴 13:45~14:45 古井康介氏 小林真子氏 吉永一輝氏</p> <p>講演 今こそ問われる! 地方自治と議会の役割 片山善博氏 14:55~15:40</p>
<p>概要</p>	<p>5月11日は、東京ビッグサイトで開催されていた「今日行く総合展 EDIX 東京」を視察し、最新の教育関連機器やソフトウェアについて情報を収集した。Google や Zoom による教育ソリューションや、採点システム・学習プログラム・健康観察アプリ PC・電子黒板などについての情報収集ができた。</p> <p>5月12日は、まず、北川先生より「チーム議会で取り組む「自己決定・自己責任」の地方自治」とのテーマで基調講演をいただいた後、デジタル大臣の牧島大臣よりデジタル庁のミッションについて講演をいただいた。引続き、江藤先生から議会改革のもう一步先を探るとして講演をいただいた後、全国市議会議長会副会長の寺沢議長と全国町村議会議長会理事の伊波議長とで「住民自治と多様な議員で構成された活力ある議会」に関する鼎談を聴かせていただいた。その中において、各議会、議長会での取り組みについての説明をいただきながら、主に多様性についての議論を聴かせていただいた。続けて、「各地からオンライン登壇も! オンライン議会の展開事例」と題し、千葉氏をコーディネーターとして、清水議会局長から「なぜオンラインが必要なのかー大津市議会の経験から」と題して、岩崎議会事務局長から「こんなこともできる! オンラインー取手市議会デモテックの取組から」と題してそれぞれの議会での取り組みについて報告いただいた。中野議長からは「議会オンラインへの対応と市民とつながる・深まる議会改革」とした実践紹介をして</p>

<p>概 要</p>	<p>いただき、オンラインで参加をされた松尾議長と米丸議員からは「市民とつながる―「議員と語ろう 議会報告会」オンライン」と題した実践紹介をしていただいた。その後、オンラインでの会議についてより深い議論を聴かせていただいた。サミット初日最後には、「多様な議員の一般質問を議会の政策形成へ」と題した講演を土山先生からいただいた後、西原議長から「一般質問検討会議から議会の政策形成へ」、青野議員と片山議員から「一般質問でまいた種を市民と共有市議会の政策形成へつなげる」と題した実践報告を聞かせていただいた。</p> <p>5月13日は、まず、廣瀬総長より「コロナ2年の経験をどう生かしていくか!?!」と題し、新型感染症禍が発生してから2年強が経過したのを振り返り、自治体においてどのような対応がなされ、何を学んだのかについて問題提起がされ、危機管理について説明いただいた。続けて、林先生より「地方議会における男女共同参画の推進と実践」題した講演をいただいた。先生の分析によれば女性議員の数が増えたからと言って議会改革が進むという結果には至らないということであった。その後、永野議員より「出産・子育てと議員活動の両立支援のための体制整備」、高橋議長と平間副議長から「正副議長が取り組む柴田町議会の男女共同参画の推進」と題した実践報告を聞かせていただいた。永野議員によれば、女性議員には大きな障壁があるとのことであったが、高橋議長と平間副議長によれば、現在の柴田町議会では男女による不平等は感じられないとのことであった。次に、中村氏より「速報！議会改革度調査ランキングとトレンド」として議会改革度調査の報告があった。その後、「Z世代にも届く！デジタルを活用した広報・公聴」と題し、古井氏・小林氏・吉永氏によるセッションが持たれ、SNS等を利用した伝わりやすい広報、聴取しやすい公聴についての議論を聴かせていただいた。最後に、「今こそ問われる！地方自治と議会の役割」と題して片山先生より講演をいただいた。統計の改ざん問題や樹木伐採問題を例にガバナンスの重要性や議論を尽くすことの重要性についてご教授いただいた。</p>
<p>得られた成果 市政への反映点 今後の課題点 など</p>	<p>取手市議会での360度カメラを用いた委員会のオンライン配信や、高校生と連携した市民との協働など先進自治体の取り組みを知ることが出来た貴重な機会であった。また、議会（事務）局職員の視点からの議会改革について知見を深めることも出来た。男女のみならず幅広い世代による多様性を確保した議会の権能を高め、議会事務局と協力しながら、住民福祉の向上に努めていきたい。本市において議会改革は必須であると感じる。先進自治体の取り組みを参考にしながらオンラインによる協議の場の設置、議員間の闊達な議論による意思決定など本市の議会改革を推進していきたい。加えて、一般質問の効率化や政策への影響を深められるよう努力したい。</p>

(参考様式2)

令和 4年 5月 20日

## 出張報告書

津山市議会議員 田口浩二

出張日	令和 4年 5月 18日 ~ 令和 4年 5月 20日
種別	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 各種会議
出張先	東京ビッグサイト 一橋大学 一橋講堂
調査研究項目 要請・陳情項目 研修会・会議名	第26回 自治体総合フェア 2022 第14回 日本自治創造学会 研究大会 変化への挑戦 元気な地方を創り出す
対応者／講師名	(一社) 地域活性化センター理事長 椎川 忍氏 (一社) Deep Care Lab 理事 田島瑞希氏 さいたま市教育委員会 山本修平氏 (一社) 行政情報システム研究所主席研究員 狩野英司氏 BB.univ 学長 森 健氏 東京大学大学院工学系研究科教授 池内幸司氏 日本自治創造学会理事長 穂坂邦夫氏 デジタル大臣 牧島かれん氏 京都大学こころの未来研究センター教授 広井良典氏 経済産業省事務次官 多田明弘氏 株式会社風と土と代表取締役 阿部裕志氏 株式会社カヤック代表取締役 CEO 柳澤大輔氏 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任准教授 若新雄純氏 朝日新聞ネットワーク報道本部記者 山下 剛氏 千葉県知事 熊谷俊人氏 富山県南砺市町 田中幹夫氏 長崎県五島市長 野口市太郎氏 滋賀県守山市長 宮本和宏氏 明治大学政治経済学部教授 牛山久仁彦氏 西条市副市長 越智三義氏 阪南大学国際観光学部長谷川ゼミ 北海道鷹栖町議会議員 青野 敏氏

	岐阜県議会議員 伊藤秀光氏 愛知県犬山市議会議員 柴山一生氏 大阪府議会議員 土井達也氏
目的	自治体DX・防災・地方創生について学ぶ
概要	<p>スケジュール</p> <p>5月18日</p> <p>10:30～11:30 まち・ひと・しごと創生（地方創生）における「人の創生」とは</p> <p>12:30～13:30 地域DXを加速する自治体×副業人材の共創</p> <p>15:00～15:30 SDG's時代の防災・BCP</p> <p>16:00～16:50 激甚化する水害からどのようにして命と暮らしを守るのか</p> <p>5月19日</p> <p>13:00～13:10 大会挨拶</p> <p>13:10～13:50 日本のデジタル政策</p> <p>13:50～14:20 地域活性化に資する経済産業省の取組について</p> <p>14:20～15:00 人口減少・成熟社会のデザイン</p> <p>15:00～15:10 質疑</p> <p>15:10～15:20 休憩</p> <p>15:20～17:30 持続可能な地域づくりを目指す海士町の取組 面白法人カヤックの鎌倉での取り組みと町のコインJK、青春、1,000万円</p> <p>17:40～20:00 改革発表会兼交流会 水辺の賑わい施設と豊かな社会の創造 議会改革（開かれた議会を目指して） 縦割り行政（警察・児相・学校）の弊害をなくして救える命を救うには？ 「情報収集の方法」における改革 全国初 コロナ待機府議と子育て府議がオンライン委員会で質疑・採択</p> <p>5月20日</p> <p>10:00～10:40 元気な地域を作るのは、当事者の視点</p> <p>10:40～10:50 質疑</p> <p>10:50～11:30 新しい千葉の時代を切り開く</p> <p>11:30～11:40 質疑</p> <p>11:40～13:00 昼食・(財)日本自治創造学会総会</p> <p>13:00～14:30 変化への挑戦 ～元気な地方を創り出す～</p> <p>14:30～14:35 閉会</p>



概

要

5月18日には、東京ビッグサイトで、上記スケジュールにより講演・事例紹介をしていただくとともに、各出展ブースにおいて説明を受けた。最初の講演は、椎川氏より「まち・ひと・しごと創生（地方創生）における「人の創生」とは」と題して、付加価値生産額を高めるための多様なイノベーターとなる人材育成の重要性についての講演であった。次の「地域DXを加速する自治体×副業人材の共創」では、実際に自治体職員と民間企業での副業をされている田島氏と山本氏による事例報告を含めた副業のメリットについて講演いただいた。森氏による「SDG's時代の防災・BCP」では、防災訓練・BCPと基礎自治体と広域自治体の連携の重要性等について講演いただいた。池内氏による「激甚化する水害からどのようにして命とくらしを守るのか」では、近年の豪雨災害の事例を基に住民の防災リテラシー・BCP・まちづくり等について講演いただいた。

5月19日には、保坂理事長より開会挨拶があり、その中で、役割分担を明確にすることの重要性、新たな地方制度の創設の必要性について述べられた。続けて、録画での配信となったが、牧島大臣より「日本のデジタル政策」について講演いただいた。新型コロナウイルス感染症ワクチン接種を例にデジタル技術の重要性、人材育成の必要性、法改正等についての講演であった。デジタル田園都市構想実現会議やデジタル臨時行政調査会での議論についての報告も含まれていた。プログラムが少々変更になり、次に、経済産業省多田事務次官より「地域活性化に資する経済産業省の取り組み」について講演をいただいた。世界における日本の遅れの状況（デジタル化・脱炭素化等）、少子高齢化、電力供給などの問題提起に始まり地域活性化のための取組の説明であった。続けて、広井教授により、「人口減少、成熟社会のデザイン」と題し、諸外国の事例を基に未来の日本像についての講演であった。休憩をはさみ、事例発表とパネルディスカッションが行われた。海士町・鎌倉・鯖江市・南砺市での民間での事例発表の後、地方の活性化について議論された。特に興味深かったのは、南砺市での「高校生に1,000万円を託す」事例であった。

講演終了後、改革発表会があり、1グループ、4個人より「水辺の賑わい施設と豊かな社会の創造」・「議会改革（開かれた議会を目指して）」・「縦割り行政（警察・児相・学校）の弊害をなくして救える命を救うには？」・「情報収集の方法」における改革」・「全国初 コロナ待機府議と子育て府議がオンライン委員会で質疑・採択」と題した発表があった。投票の結果、鷹栖町議会議員青野敏氏の発表「議会改革（開かれた議会を目指して）」が第1位となった。

5月20日には、先ず、山下記者より「元気な地域をつくるのは、当事者の視点」と題し講演いただいた。元気な地域の主体はだれなのか。との問題提起から、議員と住民との関係、多様性のある家庭への対応の必要性についての講演であった。続けて、熊谷知事より「新しい千葉の時代を切り開く」と題し、危機管理の取組、成田空港の拡張計画、それに伴う農地法の壁、国家戦略特区とすることでの対応、道路インフラの整備、農林水産物の輸出、児童福祉、教育、CCRC等多方面にわたる講演であった。

午前中のプログラム終了後に財団法人日本自治創造学会の総会が開催された。議案審議がなされ2021年度の決算認定と2022年度の事業計画が承認された。

午後からは、今研究会のテーマである「変化への挑戦！～元気な地方を創り出す～」とした実践報告とパネルディスカッションが行われた。先日も一部触れられたが、南砺市による「高校生に1,000万円を託す」取り組みでは、将来を担う若者に政治参加を促進する画期的な取り組みであると感じたが、目に見える成果が出ない事業への予算措置には少々不安も感じた。五島市での再生可能エネルギー施策にも大変魅力を感じた。守山市での琵琶湖を活用したサイクリングによる観光振興、起業家の集まる街づくり構想にも大変魅力を感じた。

地域づくりについて多角的に勉強ができる機会であった。

自治体総合フェアでは多くのブースで情報収集することができた。

各地での取り組みをより詳細に分析し、本市の活性化を図るための応用策を考えてみたい。収集した情報を基に住民福祉の充実に向け、本市執行部に提言もしていきたい。

得られた成果  
市政への反映点  
今後の課題点  
など

(参考様式2)

令和 4年 7月 1日

## 出張報告書

津山市議会議員 田口浩二

出張日	令和 4年 6月 29日 ~ 令和 4年 7月 1日
種別	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 各種会議
出張先	東京ビッグサイト
調査研究項目 要請・陳情項目 研修会・会議名	自治体・公共 Week 2022
対応者／講師名	デジタル田園都市国家構想担当大臣 若宮健嗣 環境省大臣官房地域脱炭素推進総括官 上田康治 鳥取県知事 平井伸治 経済産業省製造産業局自動車課 ITS・自動走行推進室長 福永茂和 官公庁観光地域振興部観光地域振興課観光地域づくり法人支援室長 後藤章文 宮城県仙台市長 郡和子 デジタル庁統括官国民向けサービスグループ長 村上敬亮 熊本県人吉市長 松岡隼人 福島県会津若松市長 室井照平
目的	公共政策・脱炭素・防災・地方創生について学ぶ
概要	スケジュール 6月29日 9:30~10:15 デジタル田園都市国家構想が目指すもの 12:00~12:45 脱炭素の取組で進める地域の活性化 14:00~14:45 リトルで利取る～鳥取からの挑戦～ 6月30日 10:00~10:45 スマートシティ実現に向けた地域新 MaaS 創出事業の現状と今後の方針 12:00~12:45 ポストコロナを見据えた観光地域づくり 14:00~14:45 「防災環境都市・仙台」の挑戦 7月 1日 9:30~10:15 デジタル構造改革の現状と今後の展望

<p>概要</p>	<p>12:00～12:45 頻発する自然災害に対する備えについて  14:00～14:45 「スマートシティ会津若松」の現在地と今後の展望</p> <p>上記スケジュールで各セミナーに参加した。セミナーの間に地方創生 EXPO・地域防災 EXPO・スマート指定推進 EXPO・自治体向けサービス EXPO・等を視察し、最近の DX・RPA・個人情報取り扱いシステム・議事録作成システム・チャットボット等について学んだ。</p> <p>初日は、セミナー「デジタル田園都市国家構想が目指すもの」では、若宮大臣よりデジタル田園都市国家構想の概要説明、デジタルの活用事例等の説明があった。次の「脱炭素の取組で進める地域の活性化」では、上田総括官より地球温暖化を防ぐため各地で実施されている様々な脱炭素に関する取組みに関して講演をいただいた。続けて「リトルで利取る～鳥取からの挑戦～」では、平井知事より鳥取県での新型コロナウイルス対策や移住定住施策、子育て施策など取組み事例の紹介をいただいた。</p> <p>2日目は、セミナー「スマートシティ実現に向けた地域新 MaaS 創出事業の現状と今後の方針」では、福永室長よりデジタルを活用した未来の交通システムについての講演をいただいた。次の「ポストコロナを見据えた観光地域づくり」では、後藤室長より観光 DMO の果たす役割や関係人口増へのポイントなどについて説明いただいた。次の「防災環境都市・仙台」の挑戦」では、郡市長より東北震災からの復興に関する仙台市の取組について説明いただいた。3日目は、セミナー「デジタル構造改革の現状と今後の展望」では、村上統括官より人口減少時代の社会課題の提起があり、対策についての説明をいただいた。次の「頻発する自然災害に対する備えについて」では、松岡市長より人吉市での水害を基に災害に対する備えの重要性について説明いただいた。次の「「スマートシティ会津若松」の現在地と今後の展望」では、室井市長より会津若松市でのスマートシティの取組み事例の紹介、産学官の推進体制、デジタル田園都市国家構想推進交付金の活用について説明いただいた。</p>
<p>得られた成果  市政への反映点  今後の課題点  など</p>	<p>DX、環境、MaaS、観光、災害対策、スマートシティなど各地での取組みを知り、国の方針も知ることのできた3日間であった。本市においては、DX、MaaS、スマートシティなど遅れている部分がある。他自治体の取組み事例を参考に、本市での取組みを発展させより暮らしやすい地域づくりに取り組んでいきたい。</p>

(参考様式2)

令和 4年 7月 13日

## 出張報告書

津山市議会議員 田口浩二

出張日	令和 4年 7月 11日 ~ 令和 4年 7月13日
種別	<input type="checkbox"/> 調査研究・視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 各種会議
出張先	全国市町村国際文化研修所
調査研究項目 要請・陳情項目 研修会・会議名	令和4年度市町村議会議員研修「3日間コース」 「社会保障・社会福祉」
対応者／講師名	駒澤大学法学部 教授 原田啓一郎 氏 NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会 理事長 奥山千鶴子 氏 (株) ニッセイ基礎研究所 主任研究員 三原岳 氏 九州大学名誉教授 尾形裕也 氏 大阪公立大学大学院生活科学研究科 准教授 垣田雄介 氏 (社) 全国社会福祉協議会 副会長 古都賢一 氏
目的	社会保障・社会福祉について学ぶ
概要	スケジュール 1日目 13:00~15:00 講義 持続可能な福祉社会の現状と課題 15:20~17:20 講義 子育て支援と少子化対策 2日目 9:25~11:40 講義 介護保険と地域包括ケアにおける市町村と 議会の役割 12:40~14:40 講義 地域医療の現状と課題 15:00~17:00 講義 生活困窮者の実態と支援策 17:00~18:30 課外学習 3日目 9:00~10:30 講義 地域共生社会の実現に向けて 10:50~12:00 演習

	<p>13:00～13:55 発表・講評  13:55～14:10 全体講評・総括</p>
<p>概 要</p>	<p>上記スケジュールにより各講師より講義をいただき、演習・発表を行った。</p> <p>1日目は、まず、原田教授より少子高齢化・人口減少社会の環境変化、社会保障制度の現状、持続可能な福祉社会について講義をいただいた。続けて、奥山氏からは、NPO 法人びーのびーの活動状況、子育てにおける課題・対策について講義をいただいた。</p> <p>2日目には、三原氏から、地域包括ケアの考え方、介護保険制度の現状、介護予防への取組、地域での体制づくり、議会の対応について講義を受けた。続けて、尾形教授から、医療・介護提供体制の長期ビジョン、医療計画、地域医療構想、介護保険施設、医療機関経営戦略について講義を受けた。続けて、垣田准教授より生活困窮者の実態、生活保護への考え方について講義を受けた後、意見交換を実施し、最終日に実施する演習課題を決定した。</p> <p>3日目は、古都副会長より新型感染症禍での社会課題、生活課題、福祉への考え方、地方自治体の役割、協働について講義を受けた後、2日目の課外学習で決定したテーマ「生活のしづらさのある人たちへの支援策として、これからの福祉には何が必要か」について意見交換をし、発表に臨んだ。</p>
<p>得られた成果  市政への反映点  今後の課題点  など</p>	<p>今回の研修は、社会保障と社会福祉の現状をよく知り理解する中で、これからの在り方について考える良い機会であった。限られた予算の中でどのように優先順位をつけ対策を立てるのか非常にむづかしい課題であると考えている。誰もが憲法に定められた生存権と幸福追求権を行使できるように施策を展開していかなければならないと思うとともに、納税者の理解がどこまで得られるかという問題もある。多方面から研究しながら解決策を探していきたい。</p>

(参考様式2)

令和 4年 8月 2日

## 出張報告書

津山市議会議員 田口浩二

出張日	令和 4年 8月 1日 ~ 令和 4年 8月 2日
種別	<input type="checkbox"/> 調査研究・視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 各種会議
出張先	全国市町村国際文化研修所
調査研究項目 要請・陳情項目 研修会・会議名	令和4年度第2回市町村議会議員特別セミナー
対応者／講師名	中央大学副学長法学部教授大学院法学研究科教授 磯崎 初仁 氏 (公)地球環境戦略研究機関(IGES)上席研究員 藤野 純一 氏 関東学院大学法学部社会抗争大学院大学特任教授 牧瀬 稔 氏 磐梯町最高デジタル責任者・愛媛県 市町DX推進統括責任者 菅原 直敏 氏
目的	地方行財政について学ぶ
概要	スケジュール 1日目 13:15~14:45 講義 政策に強い議会をつくる 討議する議委員・役立つ議会 15:05~16:35 講義 市町村における脱炭素のススメ 16:45~17:00 入寮オリエンテーション 2日目 9:00~10:30 講義 人口減少時代における 地域創生を進めるポイント 10:50~12:20 講義 自治体DXの基本と議会の役割 12:20~12:30 事務連絡

<p>概要</p>	<p>上記スケジュールにより各講師より講義をいただいた。</p> <p>1 日目は、まず、磯崎教授より自治体議会のあり方、議会の権限、議会の政策力強化のための戦略、審議ポイント、議会事務局の機能の強化について詳細な説明をいただいた。次に、藤野研究員より地域での脱炭素の取組み事例を紹介していただきながら世界の温暖化対策の潮流、地域脱炭素ロードマップ等についての説明をいただき、今後求められる仕組み作りについて教えていただいた。</p> <p>2 日目には、牧瀬教授から、地方創生、人口の推移、人口減少下で持つべき視点について説明いただいた。次に、菅原氏より自治体DXとICT化の違い、DXの必要性・効果について取組み事例を元に説明していただいた。</p>
<p>得られた成果 市政への反映点 今後の課題点 など</p>	<p>それぞれの講義は全く異なった視点からのものではあるが、これからの地方行政において重要な項目であると感じている。議会については、少しずつではあるが改革が進んでいると感じている。今回の講義で教示いただいたことを参考に、討議ができる議会とし、議会の持つ権能の強化を図り、住民の福祉の増進のための政策提言をしていきたい。合わせて、直面している温暖化対策のための脱炭素の取組みについてエビデンスを基に真剣に対策を考えていきたい。人口減少社会における地方創生・DXについては、総人口が減少している中での取り合いをするのではなく、目的を明確にしたDXを推進し、新たなツールを活用しながら手続きの簡略化、業務の効率化を図り暮らしやすい地域づくりに取り組んでいきたい。</p>



## 出張報告書

津山市議会議員 田口浩二

出張日	令和 4年 9月 4日
種別	<input type="checkbox"/> 調査研究・視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 各種会議
出張先	きらめきプラザ
調査研究項目 要請・陳情項目 研修会・会議名	チャイルドラインおかやま 公開講座 第1・2回 「チャイルドラインから見える子どもたち」 「コロナ禍の子どもたち」
対応者/講師名	NPO 法人チャイルドラインおかやま 理事長 矢野千重子氏 臨床心理士/公認心理師/スクールカウンセラー 安原こずえ氏
目的	チャイルドラインの活動を知り、子供たちが抱える問題について学ぶ
概要	スケジュール 10:00~12:00 講義 「チャイルドラインから見える子どもたち」 13:00~15:00 講義 「コロナ禍の子どもたち」
概要	上記スケジュールにより各講師より講義をいただいた。 第1回「チャイルドラインから見える子どもたち」では、矢野理事長よりチャイルドラインについて、子供を取り巻く状況、チャイルドラインの年次報告、おとなにできることについて様々なデータを用いて、説明いただいた。 第2回「コロナ禍の子どもたち」では、安原氏よりコロナ禍における子供たちの思いや生活実態について説明いただいた後、5・6名のグループに分かれて、「コロナ禍でよかったこと」についてブレインストーミングの手法によりグループワークを行った。
得られた成果 市政への反映点 今後の課題点 など	子供たちの実態を知るとともに、チャイルドラインの活動による子供たちへの影響について学ぶことができた。新型感染症による負の面、正の面にも気づくことができた。これからの青少年の健全育成活動に生かしていきたい。